（別紙4）　　令和　8　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2277101693		
法人名	有限会社　ありずう		
事業所名	グループホームなの花　れんげ		
所在地	静岡県浜松市中央区早出町1200-25		
自己評価作成日	令和8年6月14日	評価結果市町村受理日	令和8年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277101693-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1　柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和8年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設内の清掃を毎日行って掃除が行き届いている。共有スペースには利用者と一緒に作った季節感のある創作物を飾っている。職員は制服の着用はなく家庭的な雰囲気を大切にしている。また利用者が施設で楽しみを持てるように外部ボランティアを積極的に受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関には洒落た和風キャビネットとともに手作りの作品や利用者への感謝状が来訪者を出迎えていて、事業所の温かさが滲みます。室内ではソファーに仲良く並ぶ利用者もいて、時間がゆっくり流れている様子が見受けられますが、昨年の夏祭りには家族を招き、射的やヨーヨー釣りなどの他、食事も提供して賑やかな一日もありました。家族には通信が好評で、職員が個別にメッセージを書き込んでいることもあって、「楽しみにしている」との声も聞かれています。一方、運営の質にも目を向け、生産性向上推進体制加算への取組も開始していて、頼もしい事業所です

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示してある。入職時に、職員に伝達しているが全職員に周知出来ていない。	介護理念、介護方針が事務所に掲げられていますが、申し送りや研修で唱和や確認はおこなっていません。一方、「敬い、愛しみ（いつくしみ）、その人らしい、いごこちの良い暮らし」が在ることは、利用者の佇まいから感じられます	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りを見学する事がある。ただ、日常的な交流は殆ど出来ていない。	隣近所とのつきあいは薄いものの、ボランティアの受け入れが盛んです。ハンドトリートメントやハーモニカコンサート、ハンドチャイム、フラワーアレンジメントなど多様な愉しみがあり、利用者の笑顔や発語を増やしています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居見学に来られた方や運営推進会議の委員に向けて認知症の対応方法について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二か月に一度、行っている。事業所の活動報告、計画や予定、実績について報告している。運営推進委員からの意見を得る事が出来ている。	行政と地域からメンバーが集まるほか、家族代表や法人代表者も加わり、2か月分の活動報告がおこなわれています。前任の民生委員からはボランティアの紹介・仲介が得られ、事業所の賑わいに実っています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスや介護報酬について、分からない事があれば必ず介護保険課に連絡をし確認をしている。指導や助言を得ながら施設運営を行っている。	地域包括支援センターの職員は運営推進会議に欠かさず出席くださっています。行政窓口には運営上のことだけでなく、家族からの相談を含む対応についても助言や回答が得られていて、日頃から助けられています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。身体拘束適正化委員会を設置し委員会を二か月に一度開催している。身体拘束に関する勉強会を配信で行っているが全ての職員に周知出来ておらず知識に個人差がある。	身体拘束排除と虐待防止は、それぞれ指針を作成しています。指針に基づき、委員会や研修を定期的におこない、厚生労働省が発行する手引きも参考に改めて学習を積む等、真摯に取り組んでいます	新採者の研修はおこなっていますが、実施が確認できるよう、レポートやテスト結果を残すこと期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の指針を作成し虐待防止についての委員会を設置し開催している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で成年後見制度を利用している方がいる。管理者が成年後見制度についての勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約時に、重要事項説明書を使ってサービスや料金について丁寧な説明を行っている。また、契約は説明をした時に行わず契約書を持ち帰って熟読して頂くようにお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議委員に家族を任命し、会議に参加して頂いている。そこで意見を得ている。それを運営に反映させている。	ユニット毎に月１回、通信を発行しています。手作りの食事が外部からの搬入に変更になったことや、料金設定が変わることなどでは、個別に意見や相談が入る程、家族には気兼ねなく言ってもらえていて、信頼関係ができています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の職員から出た意見は管理者がまとめて代表に伝えている。運営推進会議に代表も参加して意見交換を出来る機会を作っている。	定例会議を位置づけてはいませんが、何かあれば招集をかけて参会となることが慣例となっています。産前産後と育休でおよそ１年の休暇をとっている職員が2名いる事例からは、風通しがよく、手厚い職場であることが覗えます	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が勤務の実績を確認し代表に伝えている。それを基に代表が査定を行っている。また現在、産後休暇取得中の職員が二名いる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員の勤務態度を確認し、研修に参加出来るように勧めている。本年度は実践者研修とリーダー研修に参加する職員をそれぞれ1名予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持つ機会を作る事が出来ていない。法人内の事業所との交流も少なく内外部との交流が出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人のアセスメント面談を行っている。本人、家族、ケアマネジャーから情報を聞き取り関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が一番困っている事を確認している。キーパーソンだけではなく、他の家族にも聞き取りしている。施設の見学も出来るだけキーパーソンだけではなく他の家族にも勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の際に、事業所外のサービスについても情報提供を行っている。そのサービスが必要になればスムーズに利用が出来るように提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、利用者と一緒に食器拭きや、洗濯物を畳んだり家事を行っている。利用者と家事を一緒に行う事で家庭的な雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性に配慮しながら支援を行っている。家族の面会時には、一緒に過ごせるように個室で面会を行っている。個室で面会が難しい利用者には、共有のスペースでも面会を行い状況に合わせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方で面会に来られない家族には年賀状等手紙を送っている。また、本人が手紙を書いた時には、施設職員がそれを郵送している。	通信には毎月の行事や外出、食事の様子がわかる写真とイラストが色鮮やかに家族に届けられ、職員が個別にメッセージも添えています。５類移行となり、面会の方法も徐々に緩やかにしており、居室も出入りできています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が出来るように食堂の利用者の座席を工夫している。2ユニットあるが、ユニット合同でレクリエーションを行う機会を作り利用者同士の交流を持つ機会を作っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により退居された利用者に対しても情報提供を行うなどフォローを行っている。入院中に亡くなった利用者の場合には葬儀に参列し、施設での写真を渡している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の想いや意向を聴き取っている。利用者の希望により梅干しや甘酒、豆乳等嗜好品を食事に取り入れている。	家族には、主に既往歴や体調を中心とした「生活歴シート」へ記入してもらっていて、そこには「今後希望すること」という欄もあります。普段の会話から聞き取った内容はタブレット端末か連絡ノートに記録し、職員間で共有しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、本人の生活歴シートを家族に記入してもらっていいる。また、家族に同意を得た上でケアマネージャー等から情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	iPadに利用者ごとの生活記録、食事量や水分摂取量、排便記録等を記録し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で利用者の課題について話し合っている。現状の課題についても家族に伝えている。職員や家族の意見をプランに反映している。	現在、管理者が計画作成担当者と介護支援専門員を兼務する状況にあり、早めに是正すべく実務者研修へ職員を派遣しています。カンファレンスはないものの、管理者で一元化されている為、介護計画書の内容が充実しています	2表の担当者欄には、介護職員や医療関係者だけでなく、家族をも加わることを期待します
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をiPadに入力し、一人一人の生活リズムを把握している。その記録を確認しその方にあった日中の過ごし方を検討しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療保険を使い、訪問マッサージを利用している利用者がいる。また、腰や足腰の痛みがあり鍼灸を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに慰問にきて貰っている。ハンドマッサージやフラワーアレンジメント等を企画し、利用者に楽しんで貰っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的な訪問診療を行っている。在宅診療で対応が困難な場合は希望や状況に応じて専門医に受診が出来るように支援を行っている。	事務員を帯同した訪問診療医が月2回訪れているほか、医院が運営する訪問看護事業所の看護師の来所もあり、医療連携が図られています。また6月からは「薬剤師居宅療養」が導入され、薬のリスク管理の向上が見られます	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、かかりつけ医院の看護士が訪問し、健康観察を行っている。その際に、利用者の情報提供を行い、白癬の爪切りや摘便、軟膏を塗布する等、処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった場合には、出来るだけ情報提供を行っている。入院前のADLを伝えている。また退院の際にも、医療行為の受け入れ要綱等を伝え家族にも納得して頂いた上で受け入れを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、家族が望む医療についての確認表を渡し、意向を確認している。施設で行う医療の出来る事、出来ない事の説明を行っている。重度化した段階でも話し合いを重ねている。	「医療対応確認表」を通じて家族の意向を把握しており、実際看取りとなれば医師との面談も家族にお願いしています。此処一年で看取りは2例あり、毎日通って食事介助を手伝ってくださったりと、家族の協力が得られています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。しかし、職員によって経験や知識に差がある。訓練をする機会がなく実践もあまり出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の防災訓練を行っている。火災訓練や、地震の訓練を行っているが水害訓練は行う事が出来ていない。消防署の職員によるAED訓練も行った実績がある。また施設外に自家発電機を設置している。	防災頭巾かヘルメットは入居のとき持ち込まれていて、一列に並べた椅子に頭を防護したまま仲良く談笑する姿を収めた写真を確認しました。年2回の避難訓練のほかに消防署の職員からAEDの訓練指導も受けています	「避難訓練の手順書を渡して、備蓄品等を含めた説明をおこなう」ことを昨年度の目標に掲げていますが、完遂されていない為、次の新採者には実施を期待します

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの性格を理解し、その人に合わせた対応を行っている。排泄介助や入浴の際には、羞恥心に配慮した対応をしている。	「5時に起きたい」利用者の意向にも添い、一人ひとりの要望に応えるケアサービスとしており、時には真実ではなく、優しい嘘で安心してもらうことも致し方なく取り入れて穏やかに過ごすことを優先しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の想いを表出しやすいように個別で話を聴く等工夫している。また自己決定をし易いように選択肢で決めてもらう様にする場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の時間、就寝時刻など日課のタイムスケジュールはおおよそ決まっているが、その方にペースに合わせて時間をずらす等臨機応変に対応してる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者が多く、身だしなみの為に施設で化粧水を購入し入浴後に使用している。利用者の希望に合わせて利用者を連れ用品店にいく事もある。また施設に訪問理美容が二ヵ月毎に来て髪を切っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望により梅干しを食べたいと希望がある方には梅干しを提供している。食後に食器拭きやテーブル拭きを利用者と一緒に行っている。	現在は搬入された食事としていて、ミキサーは事前に発注し、刻みは状態に合わせ職員が手を加えています。一方で焼いたパンケーキを半分に折って、鯉のぼりに見立ててデコレーションするといった愉しみにも尽力しています	搬入された献立を温めるときの適温や状態管理について、改めてルールを設けることを期待します
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量を記録している。飲水はお茶だけでなく、コーヒー、昆布茶、ポカリスエット等嗜好品を提供し水分量を確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に口腔ケアを行っている。義歯を使用している方には定期的にポリデントを使用している。定期的な歯科診療はないが異常があれば訪問診療で歯科に診てもらっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄の時間・量・形状などを記録している。その情報を職員間で共有し、利用者にあった排泄パターンで介助を行っている。	タブレット端末上に記録を入れていて、職員が状態を把握しています。平均介護度は2．2です。大半はリハビリパンツですが、徐々に軽度と重度に開きができていて、布パンツが2名、テープ式のおむつを使う人が4名います	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、バナナやヨーグルトを提供している。水分に嗜好品を取入れ多く水分をとれる様に工夫している。また、便秘予防の為、体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回以上の入浴を勧めている。利用者の体調や気分に合わせて入浴出来るように勧めている。入浴を嫌がってしまう利用者には足浴や身体を拭くなどして対応している。	1日3人を励行しており、「週2回以上で、3回のときもある」という方式で清潔保持に努めています。拒否が2名いて、内1名は家族がいたら大丈夫なことから、週1回ほどは家族に通ってもらっています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとに日々の睡眠状況を記録している。その上で日中の過ごし方を考え関わっている。体力の低下がみられる利用者には無理な離床は行わず安静に過ごせる時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認しながら、毎日の薬セットを行っている。錠剤が飲みにくくなっている利用者には散剤に変更してもらう等配慮している。薬の変更があった利用者には医師に情報提供を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花が好きな利用者と一緒にお花をプランターに植えたりしている。また、利用者と一緒に工作を作るなど楽しみをもてる時間を作って言る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	すべての利用者にできている訳ではないが、初詣でに出かける等外出支援を行っている。家族に協力を得て、家族と一緒にドライブに出かける事もある。	四ツ池公園、花川公園の桜の花見、熊野の長藤、足湯などへ、少人数の小分けで出かけています。玄関先に椅子を並べて、皆で麦わら帽子を被り、季節の風の中で日差しを楽しむという日もあります	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内に貴重品の持ち込みはお断りをしている。お金の管理が出来る方、またはお金がないと不安になってしまう方については少額の金銭を持っている方もいる。お金を使う機会は作れていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が知人に手紙を書いて郵送する機会を作っている。また年賀状を作成し利用者にコメントを記入してもらい家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂にはスポットライトが設置してあり、館内の明るさによって調節している。季節感が出るように利用者と一緒に作った工作物を食堂や廊下に展示している。	埋め込み式スポットライトが配されていて、天気や利用者の状態や時間によって照度を変更できています。また3月にはお雛様を飾るといったことが日常に溶け込み、華道が趣味の関係者が生花を届けてくれる日もあります	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの居間には、食卓だけでなくソファーや座敷があり、利用者同士会話をしたり、利用者と職員が一緒に洗濯物を畳んだりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の動作能力に合わせてベッドや家具の配置を行っている。本人が使い慣れた家具を使用して過ごしやすい空間を作っている。	利用者の動作観察から気づきがあれば、職員間で検討のうえ、居室の配置を変えることもあります。箪笥やテレビのほか、以前床屋を経営していた人は、大きな鏡を持ち込んでいます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂場、玄関には手すりを設置して動きやすいようにしている。居室のベッドには利用者のADLに応じて立ち上がりバーを設置している。		

（別紙4）　　令和　8　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2277101693		
法人名	有限会社　ありずう		
事業所名	グループホームなの花 すみれ		
所在地	静岡県浜松市中央区早出町1200-25		
自己評価作成日	令和8年6月14日	評価結果市町村受理日	令和8年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277101693-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1　柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和8年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設内の清掃を毎日行って掃除が行き届いている。共有スペースには利用者と一緒に作った季節感のある創作物を飾っている。職員は制服の着用はなく家庭的な雰囲気を大切にしている。また利用者が施設で楽しみを持てるように外部ボランティアを積極的に受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関には洒落た和風キャビネットとともに手作りの作品や利用者への感謝状が来訪者を出迎えていて、事業所の温かさが滲みます。室内ではソファーに仲良く並ぶ利用者もいて、時間がゆっくり流れている様子が見受けられますが、昨年の夏祭りには家族を招き、射的やヨーヨー釣りなどの他、食事も提供して賑やかな一日もありました。家族には通信が好評で、職員が個別にメッセージを書き込んでいることもあって、「楽しみにしている」との声も聞かれています。一方、運営の質にも目を向け、生産性向上推進体制加算への取組も開始していて、頼もしい事業所です

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所事務所内に理念を掲示してある。入職時に、職員に伝達しているが全職員に周知出来ていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りを見学する事がある。ただ、日常的な合交流は殆ど出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居見学に来られた方や運営推進会議の委員に向けて認知症の対応方法について伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二か月に一度、行っている。事業所の活動報告、計画や予定、実績について報告している。運営推進委員からの意見を得る事が出来ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスや介護報酬について、分からない事があれば必ず介護保険課に連絡をし確認をしている。指導や助言を得ながら施設運営を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成している。身体拘束適正化委員会を設置し委員会を二か月に一度開催している。身体拘束に関する勉強会を配信で行っているが全ての職員に週内出来ておらず知識に個人差がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の指針を作成し虐待防止についての委員会を設置し開催している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で成年系後見制度を利用している方がいる。管理者が成年後見制度についての勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約時に、重要事項説明書を使ってサービスや料金について丁寧な説明を行っている。また、契約は説明をした時に行わず契約書を持ち帰って熟読して頂くようにお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議委員に家族を任命し、会議に参加して頂いている。そこで意見を得ている。それを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の職員から出た意見は管理者がまとめて代表に伝えている。運営推進会議に代表も参加して意見交換を出来る機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が勤務の実績を確認し代表に伝えている。それを基に代表が査定を行っている。また現在、産後休暇取得中の職員が二名いる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員の勤務態度を確認し、研修に参加出来るように勧めている。本年度は実践者研修とリーダー研修に参加する職員をそれぞれ1名予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持つ機会を作る事が出来ていない。法人内の事業所との交流も少なく内外部との交流が出来ていない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人のアセスメント面談を行っている。本人、家族、ケアマネジャー、サービス事業者から入居前に事前に情報を貰っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が一番困っている事を確認している。キーパーソンだけではなく、他の家族にも聞き取りしている。施設の見学も出来るだけキーパーソンだけではなく他の家族にも勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談の際に、事業所外のサービスについても情報提供を行っている。そのサービスが必要になればスムーズに利用が出来るように提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食器拭きや、洗濯物を一緒に畳んだり家事を行っている。利用者と一緒に家事を行う事で家庭的な雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性に配慮しながら支援を行っている。家族の面会時には、一緒に過ごせるように個室で面会を行っている。個室で面会が難しい利用者には、共有のスペースでも面会を行い状況に合わせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来所された際には、職員の休憩室や事務所を使用し、談笑が出来るように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の個々の性格や、利用者同士の関係を把握し、コミュニケーションを摂りやすいようにしている。また、職員が利用者ごとに接し方を工夫している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により退居された利用者に対しても情報提供を行うなどフォローを行っている。入院中に亡くなった利用者の場合には葬儀に参列し、施設での写真を渡している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の立場に立って想いや意向を聴いている。利用者本人から発信が難しい方には家族などから情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、本人の生活歴シートを家族に記入してもらっていいる。また、家族に同意を得た上でケアマネージャー等から情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	iPadに利用者毎の生活記録を行っている。それを踏まえて申し送り時に簡単なミーティングを行い利用者の情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が作成した介護計画書をファイリングして閲覧できるようにしてある。プランは職員と情報共有をして作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝申し送りの際にミーティングを行って情報交換を行っている。その際に、職員の気付きを共有し食事形態の変更等を相談している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	腰の痛みのある利用者に医療保険での鍼灸治療を行っている。週二回来てもらい痛みの軽減につながっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに慰問にきて貰っている。ハンドマッサージやフラワーアレンジメント等を企画し、利用者に楽しんで貰っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期の訪問診療を月二回行っている。在宅医療が困難な方には家族が医師と相談し医療の希望を確認し支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回かかりつけ医クリニックからの訪問看護を利用している。バイタル測定や処置など健康観察を行っている。必要に応じて医師に相談し対応してもらう事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった場合には、出来るだけ情報提供を行っている。入院前のADLを伝えている。また退院の際にも、医療行為の受け入れ要綱等を伝え家族にも納得して頂いた上で受け入れを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、家族が望む医療についての確認表を渡し、意向を確認している。施設で行う医療の出来る事、出来ない事の説明を行っている。重度化した段階でも話し合いを重ねている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。しかし、職員によって経験や知識に差がある。訓練をする機会がなく実践もあまり出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の防災訓練を行っている。火災訓練や、地震の訓練を行っているが水害訓練は行う事が出来ていない。消防署の職員によるAED訓練も行った実績がある。また施設外に自家発電機を設置している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オムツ交換の際に居室の扉を閉めるなどしてプライバシーに配慮している。また声掛けも利用者本人の羞恥心に気を付けて行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が想いを表出できるように声掛けしている。また耳の悪い利用者には筆談やジェスチャーを使ってコミュニケーションをはかっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団で何かを行う日課は決まっていない。それぞれにADLや希望に合わせた援助を心がけている。体調の悪い方には負担のかからないように臥床時間を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容が二ヵ月毎に来てカットを行っている。更衣介助を行う時には本人の意向を大事にして行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は給食を頼んでいるが、利用者のリクエストを聴いて食事を購入する機会を作っている。お寿司やウナギを購入して提供する事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には甘酒やポカリスエットを提供している。またふりかけを購入してご飯をたくさん食べられるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを勧めている。うがいが難しい方にはモンダミンやスポンジブラシを購入して介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄の量や回数を記録して把握している。利用者のペースを考慮し声掛けしトイレ誘導を行っている。利用者ごとの排泄量に合わせてオムツ類を検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者には積極的に水分を勧めている。施設内の散歩等で適度な運動を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回以上の入浴を行っている。利用者の気分や体調に合わせて支援している。入浴が負担になる方にはシャワー浴や清拭で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おおよその消灯時間は決めているが、利用者のペースに合わせた就寝介助を行っている。昼夜逆転の方にはなるべく日中の離床や活動を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎のお薬情報をファイリングしている。それを見て職員が情報を得ている。居宅療養管理指導を利用し、薬剤師と相談をする事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事が終わると利用者と一緒に食器拭きを行っている。洗濯物を畳むなど家事を利用者と一緒にする事で一緒に暮らしている雰囲気を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はあまり出来ていない。家族の支援を得て利用者がお散歩に出かける機会はある。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が出来ないため、欲しい物は家族にお願いするか、施設で立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は要望もなく使用もしていない。毎年、施設で本人の写真を載せた年賀状を作成し、文字を書ける方には一筆添えて家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの居間には、利用者が季節を感じられる様に飾りつけをしてある。その飾りつけを利用者と職員が一緒に行っている。室内の換気や空調を使い利用者が過ごしやすいような温度にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの居間には、利用者同士が交流し易いように、ソファーや座椅子が設置してある。テーブルの配置もテレビが見やすいように、利用者の同士の顔が見えるように配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた物が置いてある。理髪店を営んでいた利用者には鏡台が設置してあり自宅のような雰囲気がある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの扉には表札がつけてある。また居室内は本人が自分で洋服を選べるように家具を配置してある。		